

報道関係者各位

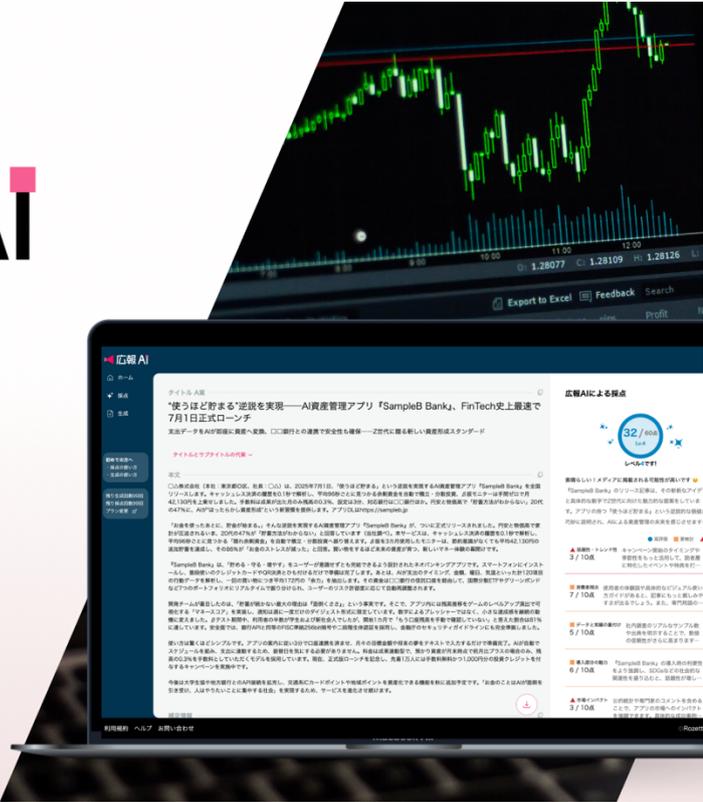
『広報 AI』が Fintech 業界のプレスリリース生成に対応 ～サービスの強みをわかりやすく、魅力的なタイトルで他社リリースと差別化～

メタリアル・グループの株式会社ロゼッタ(本社：東京都千代田区、代表取締役：五石 順一)が提供する、メディアに掲載されやすいプレスリリースを生成・採点可能な『広報 AI』が、Fintech 業界のプレスリリース作成に対応しました。複雑で専門性の高い金融・テクノロジー領域においても、一般読者やメディアに“伝わる形”での広報活動を、迅速かつ安全にサポートします。

プレスリリース生成・採点AI



Fintech業界の プレスリリース 生成に対応



『広報 AI』特設ページ <https://www.kohoai.com> (無料トライアル実施中)
法人プランお問い合わせ先 <https://www.kohoai.com/#contact>

■ Fintech 業界の広報課題に対応

FinTech 業界では、新サービスの発表や機能アップデート、資金調達、提携など広報の機会が豊富にある一方で、専門用語や仕組みが難解なため、ニュース性や革新性が正しく伝わりにくいという課題があります。さらに、金融庁や法務観点の規制を意識しなければならず、表現が過度に堅くなり、“人に響かない”リリースになってしまうと悩む広報担当者も多く存在します。

『広報 AI』は、技術仕様や事業内容に含まれる専門的な記述をベースに、メディア視点で伝わりやすい文章へと自動補正。堅くなりがちな FinTech のリリースに対し、UX や顧客ベネフィットの観点を取り入れた“人に響く表現”を提案し、読者の興味を引く構成を実現します。

さらに、サービス資料 (PDF など) をアップロードするだけで、プレスリリース初稿を作成でき、情報発信のスピードと質の向上を実現します。

■ 本件に対するお問い合わせ
株式会社メタリアル 広報：松本
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3 丁目 7 番 1 号
Email: pr@metareal.jp <https://www.metareal.jp/contact/>



報道関係者各位

■ Fintech 業界のプレスリリース生成例

広報 AI で、資産管理アプリリリースに関するプレスリリースを作成した例をご紹介します。

広報 AI が生成したタイトル案：

1. “使うほど貯まる”逆説を実現——AI 資産管理アプリ『SampleB Bank』、FinTech 史上最速で 7 月 1 日正式ローンチ～支出データを AI が即座に資産へ変換、□□銀行との連携で安全性も確保——Z 世代に贈る新しい資産形成スタンダード～
2. 『使うほど貯まる』AI 資産管理アプリ『SampleB Bank』、7 月 1 日ローンチ——Z 世代に贈る“ほったらかし資産形成”革命～日常支出を AI が瞬時に貯蓄・投資へ最適化、□□銀行との連携で安全性を担保した新スタンダードが金融の常識を刷新～
3. AI×金融の革命：「お金の管理が苦手」を「自動で貯まる」に変える、想像を超えた新体験
従来の複雑な資産管理を覆す、100 円から始められる次世代アプリが若い世代の金融不安を解決
4. AI×資産管理：お金の悩みを解決する驚きの新パートナー誕生～従来の家計管理を覆す、100 円から始められる次世代資産運用アプリ『SampleB Bank』が Z 世代の金融不安を一掃～

広報 AI が生成したリード文：

○△株式会社（本社：東京都○区、社長：○△）は、2025 年 7 月 1 日、「使うほど貯まる」という逆説を実現する AI 資産管理アプリ『SampleB Bank』を全国リリースします。キャッシュレス決済の履歴を 0.1 秒で解析し、平均 96 秒ごとに見つかる余剰資金を自動で積立・分散投資、β 版モニターは手間ゼロで月 42,130 円を上乗せしました。手数料は成果が出た月のみ残高の 0.3%、設定は 3 分、対応銀行は□□銀行ほか。円安と物価高で「貯蓄方法がわからない」20 代の 47%に、AI が“ほったらかし資産形成”という新習慣を提供します。

◀ 広報 AI

プレスリリース生成結果画面
Fintech 「資産管理アプリリリース」の例



■ 本件に対するお問い合わせ

株式会社メタリアル 広報：松本
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3 丁目 7 番 1 号
Email: pr@metareal.jp <https://www.metareal.jp/contact/>



報道関係者各位

■今後の展望

メタリアル・グループは、高い技術力を活かして一般的な AI とは差別化を図った業界特化型 AI の開発を推進し、幅広い分野への展開を目指します。プレスリリース生成や AI の個別開発にご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

- ・ 広報 AI 特設サイト：<https://www.kohoai.com>
- ・ AI 個別開発のお問い合わせ先：contact@metareal.jp

■忙しい広報担当者のための頼れる相棒『広報 AI』とは

『広報 AI』は、現場の広報担当者の声をもとに開発され、プレスリリース採点機能と生成機能を備えています。採点機能では、特許出願中の技術でプレスリリースの内容からメディア掲載の可能性をスコア化し、プレスリリースの質を高めることができます。

生成機能では、簡単な概要文を入力するだけで、人間に引けを取らない表現力で、訴求力のあるタイトルや本文を自動生成。初稿作成の手間を大幅に削減します。

これらの二つの機能により、『広報 AI』は多忙な広報担当者や、効果的なメディア露出を目指す企業の強力な相棒として、限られた時間の中でも質の高い広報活動を可能にします。

AI が広報部の第三の社員に

あなたのプレスリリースをAIが採点/生成

プレスリリースを
AIがスコア化
ブラッシュアップ提案

メディア掲載傾向を
学習したAIが
掲載確率の高い
リリースを生成！
作成時間を92%短縮

広報専用AIエージェントを新搭載

学会発表・特許出願技術

■利用方法

『広報 AI』は、PC やスマートフォンの Web ブラウザからいつでもどこでも利用できます。

1. 広報 AI 特設サイト(<https://www.kohoai.com>)から新規登録(7 日間の無料トライアルあり)
2. ニーズに合わせて料金プランを選択
3. プレスリリースの採点・生成機能の利用

※法人プランご希望の方はお問い合わせください。<https://www.kohoai.com/#contact>

■ 本件に対するお問い合わせ

株式会社メタリアル 広報：松本
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3 丁目 7 番 1 号
Email：pr@metareal.jp <https://www.metareal.jp/contact/>



報道関係者各位

■料金プラン

- ・プレスリリース採点プラン：月額 5,500 円(税込)で月に 15 本まで採点可能。
- ・プレスリリース生成+採点セットプラン：月額 8,800 円(税込)で月に 30 回まで利用可能。
- ・法人プラン：月額 37,400 円(税込)で月に 50 回まで利用可能。法人内でのアカウント共有、請求書払いに対応。

■メタリアル・グループについて

「世界中の人々を場所・時間・言語の制約から解放する」を企業ミッションとし、翻訳市場において国内市場シェア No.1 に位置している。(出典：ITR 「ITR Market View：対話型 AI・機械学習プラットフォーム市場 2024」 翻訳市場：ベンダー別売上金額シェア(2024 年度予測))

法務・医薬・金融・化学・IT・機械・電気電子など、2,000 分野に対応。顧客ごとの課題解決・未来創造を目的とした完全カスタマイズ AI 開発サービスを提供している。

AI 開発実績：翻訳 AI、四季報 AI、広報 AI、製薬会社向け AI、ゲームローカライズ AI 等

社名： 株式会社メタリアル
URL： <https://www.metareal.jp/>
所在地： 東京都千代田区神田神保町 3-7-1 ニュー九段ビル
代表者： 代表取締役 五石 順一
設立： 2004 年 2 月
事業内容： 業種特化の専門文書 AI の企画・開発・運営
お問合せ先： pr@metareal.jp

■株式会社ロゼッタについて

国内最大の AI 翻訳リーディングカンパニーとして培った 6,000 社以上の顧客基盤と技術力を基に、製薬・製造・法務・特許・金融等の各業界に特化した専門文書作成に貢献する AI サービスを提供している。

主力サービス：専門用語に強い高精度 AI 翻訳「T-400」

(特徴)

1. 生成 AI×専門翻訳を実現。常に進化する翻訳プラットフォーム
 2. 精度 95%を誇る超高精度の自動翻訳
 3. 専門 2,000 分野・100 言語をカバー
 4. 国内サーバーによる最高水準のセキュリティ
 5. スキャン画像 PDF も丸ごと翻訳
 6. 個社の社内用語を自動で翻訳結果に反映
- その他に、製薬業向け生成 AI ソリューション「ラクヤク AI」、議事録&翻訳 AI ツール「オンヤク」などのサービスを提供。

社名： 株式会社ロゼッタ
URL： <https://www.rozetta.jp/>
代表者： 代表取締役 五石 順一
事業内容： AI 翻訳および専門文書 AI の開発・運営